



佐々木小

第 5 号
令和 4 年 9 月 15 日
佐々木小学校
新発田市則清 8 5 6
Tel 0254 - 27 - 2011

「がんばれ」より「がんばっているね」

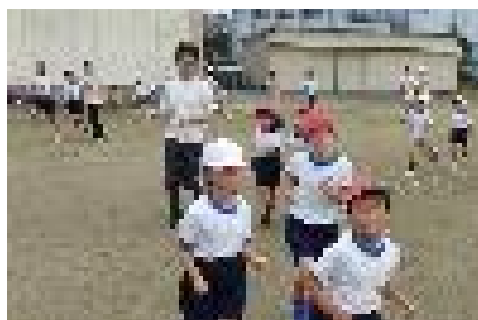
校長 齋藤 博敏

始業式の朝、いつものように児童玄関で子どもたちを迎えました。私が想像していた以上に、子どもたちの表情は明るく、「おはようございます」の声も大きかったです。きっと充実した夏休みを過ごすことができたのでしょう。

新型コロナウイルス感染がこれまでにない勢いで拡大する中での夏休みでしたが、病気等で入院したり、大きな事件事故に巻き込まれたりしたといったこともなく、子どもたちが元気に新学期を迎えることができました。これも保護者、地域の皆様の御協力のお陰です。感謝申し上げます。

さて、今月 27 日（火）には 3 年ぶりに校内持久走記録会を実施します。低学年は 1,000M、中学年は 1,500M、高学年は 2,000M 走ります。当校は“大会”ではなく“記録会”です。順位を競うのではなく、自己記録（タイム）の更新を目指して取り組みます。

7 日（水）から、持久走記録会に向けて、パワーアップタイム（業間運動）が始まりました。どの子ども自分に合ったペースを保ちながら、自分のめあて達成に向け、取り組んでいます。



以前、他校で勤務していた時に、走っている子どもたちに「がんばれ」と励ましの声をかけていました。ある時、いつものように「がんばれ」と声をかけたら、3 年生の子から「がんばれない」という声が返ってきました。「え…がんばれない」その返答のわけを考えました。よくよく考えると「がんばれ」という言葉は“命令形”の言葉なのです。大人は励ましているつもりで発しているのですが、子どもにとっては、大人から命令されているように感じるのかもしれない、と感じました。自分自身の鈍感さに気付かされた「がんばれない」の一言でした。

それ以来、「がんばれ」をやめて、「よくがんばっているね」と声をかけるようにしました。がんばりを認めて励ます声かけに変えたのです。すると、どうでしょう…それまでよりもスピードを上げ、走っていくのです。

子どもたちは、“自分ががんばっていることをまず認めてほしいのだ。認められるとさらにがんばることができるのだ”そんなことにも気付かせてくれた「がんばれ」「よくがんばっているね」の言葉でした。

2 学期が始まって約 2 週間。久しぶりの学校生活からくる疲れがそろそろ出てくるころです。そんな子どもたちに「がんばれ」ではなく「よくがんばっているね」と声をかけてあげてください。